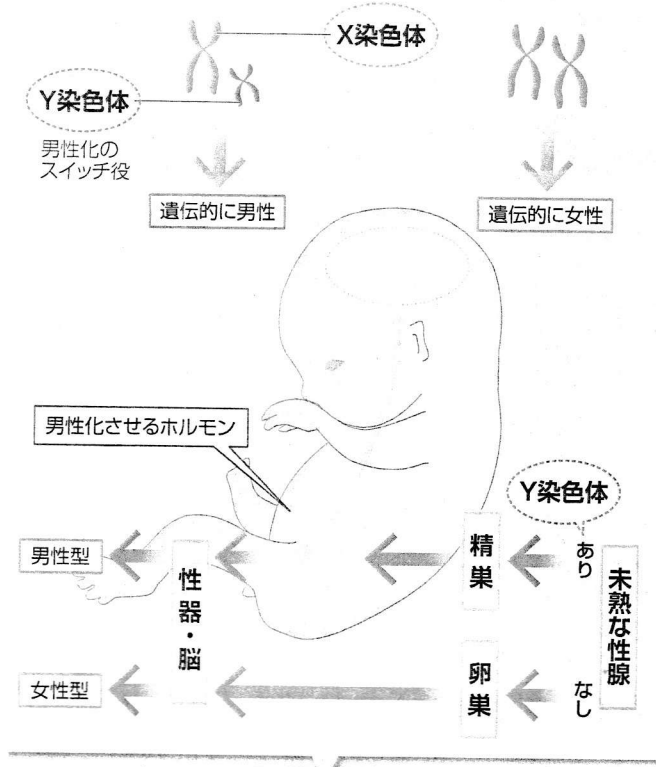


性が決まる仕組み



この過程がうまくいかないと、遺伝的な性と体や心の性が一致しないことも

今さら聞けない。

PLUS



性別

人の体の「原型」は女性？

「Y染色体があると男性」というのはあくまで原則。Y染色体があっても体、心は女性という人がいます。ひとりの人の中で「遺伝的な性」「体の性」「心の性」が一致しないこともあり、性のあり方は多様で複雑です。

胎児は初め、男性でも女性でもありません。最初の分かれ道は、

性腺が精巣か卵巣のどちらになるか。Y染色体があると受精後7週目ごろから精巣に変わります。精巣は精子を作る器官ですが、胎児では、体を男性化させるホルモンを出す働きが大切です。これによって、精子がたまったり、通ったりする器官が発達し、子宮や卵巣の元になる器官は消えてゆきます。腹部にある精巣は股間に移り、外性器も男性型になります。

Y染色体がないと、一連の変化が起きません。性腺は卵巣になり、卵巣はホルモンを出すことがなく、子宮や卵管が発達して、外性器は女性型になります。このため、人の体の「原型」は女性とも言われます。

こうした過程で支障があると、性の不一致が生じます。例えば「完全型アンドロゲン不応症」。Y染色体を持ち、体内に精巣ができて男性ホルモン（アンドロゲン）も作られます。でも、その受容体が働かず、外性器などが男性化しません。外見は典型的な女性です。男性ホルモンが弱く働く「部分型」の人において、その強弱で、男性化の程度も変わります。

Y染色体がない人でも支障が起きます。副腎という組織で男性ホルモンが作られる異常があると、卵巣や子宮、卵管があっても、外性器が男性化します。

これらは遺伝子変異が主な原因で、「性分化疾患」と呼ばれます。様々なケースがあり、出生時に性器の形で性別を判断しづらいこともあります。性別を迷うような重症は4500人に1人と「言われるが、軽症を加えればさらに多い」と浜松医科大学の緒方勤教授

（小児分泌学）は指摘します。

判断に迷う時は、医療チームと家族が話し合って戸籍上の性別を決めます。緒方さんによると、重視するのが、将来自分のことを男性と思うか、女性と思うか。脳の性である「心の性」です。

心の性は養育で決まるという考えが過去にありました。今は、脳も胎児期に浴びる男性ホルモンで男性化する、という説が有力。ただ、赤ちゃんの段階で心の性を正確に調べる手段がなく、「性器の形やどのケースにどちらの性別が合っていたか」という過去のデータに頼らざるを得ないところもある」と緒方さんは言います。

体は典型的な男性あるいは女性でも、心の性と一致しない「性同一性障害（GID）」の人も多いです。国内に数万人いるとみられ、原因は詳しくわかっていません。岡山大学の中塚幹也教授（生殖医学）によると、GID当事者の多くは、物つく頃には体の性に違和感があり、体つきが変わる思春期にその思いが強くなります。「体の性に無理に合わせようとすると、うつや自殺のリスクが高ま

記者のひとこと

26年前、性腺を精巣に変えるスイッチ役の遺伝子「SRY」がY染色体で見つかりました。実はこれが男性化の主役。SRYさえ働けば、男性化が始まります。哺乳類以外ではスイッチ役が別の遺伝子だったり、卵の置かれた温度だったり様々です。こんな点でも性の奥深さを感じます。（阿部彰芳）

る。それぐらい心の性は強い」中塚さんは指摘します。このため、ホルモン療法や性適合手術で、体を心の性に合わせる治療が選ばれています。2014年に施行された法律で、手術を受けていることなどを条件に、籍の性別変更も認められました。「身長が違いうように、性も典型的な男性、女性から広がりを持っている」。生き物の性分化に詳しい名古屋大の田中実教授は性の多様性についてこう指摘し、「これは、男性にも女性にもなれるいう、多くの生物に共通した仕組みに根ざしている」と言います。また、中塚さんは「こうした様性を社会が受け入れられないところが、差別や偏見につながっている」と指摘しています。